

Title	フランス人の姓の起源
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.1 (1937. 4) ,p.146- 146
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370400-0146">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370400-0146</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## フランス人の姓の起原

我が國で百姓・町人などの一般平民に苗字を稱するなどを許されたのは、むろん舊いことではなく明治初年の庶政一新に基づくものであるが、フランスでは『フランス社會』の發生を見るに至つた第十一世紀の頃から一般に姓を稱するようになった。それまでは Jean, Paul, Louis など生誕の際に附與せられたクリスチャン・ネーム (nom de baptême) に止しか有たなかつたのであるが、じつに父子相傳の別の名即ち姓が加はり、舊來の名が名 (Prénom) となつたのである。チャーチ (Ch. Seignobos, Histoire sincère de la nation française, p. 113—114) は説くところによれば、これは第五世紀以來何一つ永久的たることは作られず、擾亂不安定の裡にあつたフランス人民が漸く安定社會を見るに至つたことの一反映なのである。

フランス人の姓の起原は一様ではなく、その個人の特質を示した Legrand (大男) Petit (子男) Lenoir (タロ) Lebeau (美男子) Legros (強) の如きの他、その職業を示したもの Meunier (糀挽き) Charon (車夫) Masson (石工) などがあり、しだべづらの方言とみなされ化して鐵冶 (Forgeron) ふる Fèvre, Favre, Faure, Haury. などと派生した。更に又地形 Dumont (山) Dubois (木・森林) Dulac (櫻) & 藤植物 Fougère (茅蘚) Leboeuf (牛) から出たものもある。これに廢れたシャイッの古名をもつて姓としたものもある (Gautier, Durand, Arnaud, Ratier, Gibert)。北方では父の名を接尾語、例くは英語の son, ベルギーの sen, ベルギー語の vitch などを附して姓を作る慣習があつたが、これはフランスでは行はれなかつた。(間崎万里)